【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年2月17日(2005.2.17)

【公表番号】特表2004-505673(P2004-505673A)
【公表日】平成16年2月26日(2004.2.26)
【年通号数】公開・登録公報2004-008
【出願番号】特願2002-516999(P2002-516999)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６３Ｂ　22/06
【ＦＩ】
　Ａ６３Ｂ　22/06　　Ｈ
　Ａ６３Ｂ　22/06　　Ｊ

【手続補正書】
【提出日】平成15年2月24日(2003.2.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
主チャンバ（２）を形成し、その中に脚により操作できるワーキング手段（５）が配置されたハウジング（１）、ハウジング（１）内にあり、人体を取り巻く開口（８）、人体に対して開口（８）の領域のハウジング（１）をシールするためのシールカラー（１９）、及びハウジング（１）内を真空にさせる真空ポンプを含む関節に付加的な負担がなく真空により血液の血液皮膚循環を改良することにより人をスリムにする装置であって、人の体を支えるためのラウンジ手段（３０）が設けられており、その上に人が身体トレーニング中横になった位置をとれることを特徴とする装置。
【請求項２】
ラウンジ手段（３０）が開口（９）を通してハウジング（１）内に延びていることを特徴とする請求項１に記載の装置。
【請求項３】
ラウンジ手段（３０）がハウジング（１）内に縦方向に移動できるように配置されていることを特徴とする請求項１又は２に記載の装置。
【請求項４】
ラウンジ手段（３０）がラウンジ手段を傾けるための調節手段を有することを特徴とする請求項１乃至３のいずれかの項に記載の装置。
【請求項５】
シート（３）がラウンジ手段（３０）上に配置されていることを特徴とする請求項１乃至４のいずれかの項に記載の装置。
【請求項６】
人の肩を支える手段（３５）がラウンジ手段（３０）上に配置されていることを特徴とする請求項１乃至５のいずれかの項に記載の装置。
【請求項７】
シールカラー（１９）が膨らませることができるシールリングとして形成されており、ラウンジ手段（３０）と人に対して開口（８）をシールすることを特徴とする請求項１乃至６のいずれかの項に記載の装置。
【請求項８】

シールカラー（１９）が真空カバーとして形成されていることを特徴とする請求項１乃至９のいずれかの項に記載の装置。
【請求項９】
ハウジング（１０）が、円いボディー、特に卵の形で形成されていることを特徴とする請求項１乃至８のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１０】
ハウジング（１）が、ハーフシェルの形に分けられることができ、各ハーフシェルが開口（８）の部分を有し、該ハーフシェルは閉鎖システムにより結合されていることを特徴とする請求項９に記載の装置。
【請求項１１】
ワーキング手段（５）が、ステッパー、室内自転車、又はエリプストレーナとして形成されていることを特徴とする請求項１乃至１０のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１２】
コントロール手段（３４）がハウジング（１）の外に配置されていることを特徴とする請求項１乃至１１のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１３】
ハウジング内に少なくとも１つの主チャンバ（２）と少なくとも１つの別の圧力チャンバが設けられており、該チャンバは主チャンバに対して実質的に圧力でぴったりとシールされており、主チャンバ（２）内の圧力とは異なった圧力により稼動することができることを特徴とする請求項１乃至１２のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１４】
別の圧力チャンバが胴体領域内、特に人の腹領域に配置されていることを特徴とする請求項１３に記載の装置。
【請求項１５】
マグネチックコイル（１２）が人の領域に磁界を発生させるために少なくとも１つのチャンバ内に設けられていることを特徴とする請求項１乃至１４のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１６】
マグネチックコイル（１２）が人の腹を取り巻いていることを特徴とする請求項１５に記載の装置。
【請求項１７】
マグネチックコイル（１２）が人の脚を取り巻いていることを特徴とする請求項１５に記載の装置。
【請求項１８】
人を照射するための光源（１０）が、少なくとも１つのチャンバに設けられていることを特徴とする請求項１乃至１７のいずれかの項に記載の装置。
【請求項１９】
温度と空気湿度を調節するための空気調節手段が設けられていることを特徴とする請求項１乃至１８のいずれかの項に記載の装置。
【請求項２０】
脚により操作できるワーキング手段と人体を支えるシートが配置されたハウジング、人体を取り巻く、ハウジングにある開口、人体に対して開口領域にハウジングをシールするためのシールカラー、及びハウジング内を真空にさせる真空ポンプを含む装置により、関節に別に負担を負わせることなく真空により血液の皮膚循環を改良することにより人をスリムにする方法であって、最初の足踏み運動がワーキング手段により行われ、そのうちにずれて真空ポンプのスイッチが入れられることを特徴とする方法。
【請求項２１】
圧力の減少が人の循環システムに適用されることを特徴とする請求項２０に記載の方法。
【請求項２２】
真空が所定間隔を中心にして所定時間間隔で減少されることを特徴とする請求項２０又は

２１に記載の方法。
【請求項２３】
所定の最高真空に達した後、永久変化が、所定時間間隔を横切って常圧と真空との間に発生することを特徴とする請求項２０乃至２２のいずれかの項に記載の方法。
【請求項２４】
トレッドレジスタンス及び／又は真空が人の脈拍数に従って制御されていることを特徴とする請求項２０乃至２３のいずれかの項に記載の方法。
【請求項２５】
トレッドレジスタンス及び間隔切り替えが互いに連結されていることを特徴とする請求項２０乃至２５のいずれかの項に記載の方法。
【請求項２６】
主チャンバ（２）を形成し、その中に脚により操作できるワーキング手段（５）と人体を支えるシート（３）が配置されたハウジング（１）、ハウジング（１）内にあり、人体を取り巻く開口（８）、人体に対して開口（８）の領域のハウジング（１）をシールするためのシールカラー（１９）、及びハウジング（１）内を真空にさせる真空ポンプを含む関節に付加的な負担がなく真空により血液の血液皮膚循環を改良することにより人をスリムにする装置であって、開口（９）の領域内に少なくとも１つのチャンバ（１６）が、人又は人とラウンジ手段に対して別のシールカラー（２０）によりシールされて更に設けられており、その内部圧力が第１のチャンバの内部圧と独立に調節できることを特徴とする装置。
【請求項２７】
空気調節手段が他のチャンバとは独立にそれぞれの各チャンバを空気調節することができることを特徴とする請求項２６に記載の装置。
【請求項２８】
主チャンバ（２）を真空にさせるための第１の真空ポンプ（２４ａ）と少なくとも更に１つのチャンバ（１６）を真空にさせるための少なくとも更なる真空ポンプ（２４ｂ）が設けられていることを特徴とする請求項２６又は２７に記載の装置。
【請求項２９】
ただ１つの真空ポンプ（２４）が第１の圧力制御バルブ（２２）を介して主チャンバ（２）に結合されており、少なくともう１つの圧力制御バルブ（２３）を介して少なくともう１つのチャンバ（１６）に結合されていることを特徴とする請求項２６乃至２８のいずれかの項に記載の装置。
【請求項３０】
主チャンバ（２）を形成し、その中に脚により操作できるワーキング手段（５）と人体を支えるシート（３）が配置されたハウジング（１）、ハウジング（１）内にあり、人体を取り巻く開口（８）、
人体に対して開口（８）の領域のハウジング（１）をシールするためのシールカラー（１９）、及びハウジング（１）内を真空にさせる真空ポンプを含む関節に付加的な負担がなく真空により血液の血液皮膚循環を改良することにより人をスリムにする装置であって、圧力チャンバ（２０）が人の領域に磁界を発生させるマグネチックコイル（１２）を備えていることを特徴とする装置。
【請求項３１】
主チャンバ（２）を形成し、その中に脚により操作できるワーキング手段（５）と人体を支えるシート（３）が配置されたハウジング（１）、ハウジング（１）内にあり、人体を取り巻く開口（８）、
人体に対して開口（８）の領域のハウジング（１）をシールするためのシールカラー（１９）、及びハウジング（１）内を真空にさせる真空ポンプを含む関節に付加的な負担がなく真空により血液の血液皮膚循環を改良することにより人をスリムにする装置であって、人を照射する光源が圧力チャンバ（２）内に設けられていることを特徴とする装置。